

困り感を抱く児童の実態

書く読むの困り感

- 絵や文字をかくことに抵抗がある
- 語想起に弱さがある
- 発音に未熟さがある
- 指示代名詞を多く多用しがち
- 数字や色等の記憶が苦手
- (低学年で)言葉の発達に遅れがある

空間認知の困り感

- 自分の位置場所が分からない
- 図形が正確に描けない
- 書写で中心からずれる
- 距離感がつかめない
- 片付けが極端に苦手
- 空間移動のボールをつかんだりする動きが苦手
(野球・バレー・バスケット等)

感覚への困り感

- ロゴ・文字への強いこだわり
- 感覚の異常
- 愛着・人間関係の発達の遅れ

自己コントロール

- 感情の表出の加減が分からない
- すぐにキレる
- 物に当たる

困り感に
対応した
指導

「聴く」指導(訓練)

- 話しの中から、重要な箇所を聞き取る
- 絵や具体物を使い、視覚的に読み取る
- 復唱・視写の練習
- 文字による指示を組み合わせる

「話す」指導(訓練)

- 「いつ」「誰が」「どこで」「何を」「どうする」の順序にそって話をさせる
- 聞き手と話し手を決めて交互に話す練習をする
- 1つの絵から想像したことをたくさん話をさせる
- 話す内容を決めておき、ポイントを明確にさせる

「読む」指導

- 挿絵や図を示して関係をとらえさせる
- 文の長さを調整する
- 段落ごとに区切って提示
- 一行ずつ読む行だけが見えるような教材を使って読ませる
- 分ち書き、息継ぎを示す場所を明確にする
- 文の内容を分析し、児童の興味がある内容を取り上げる
- 大切な場所に線を引かせたり、キーワードを囲む
- 拗音・長音・促音等は速く読む練習をする

「書く」指導

- 持ちやすい形、太さ適切な濃さの鉛筆
- 消しやすい消しゴム
- マスの大きさに配慮
- 白紙を渡さない
- マス目がある場合ははみ出さずに書く
- 罫線ノートは避ける(マス目ノートを!)
- 漢字は絵と結びつけイメージ化を
- 漢字の自分なりの覚え方をみつけさせる
- 漢字は止めはね等の許容度を広げる
- 作文ではVTR・写真も用意して見える化
- 書写では、紙の線を折り、爪でなぞらせる

「書く」指導(2)

□ 長くたくさん書く練習
(だらだら書き)

□ 1つのことをくわしく書く練習

□ 1つのくわしいことに気持ちを投入する(気持ちを書く)

□ 1つのことに気持ちをつ長く書く

「計算力」を身につけさせる指導

- 筆算では位がわかるように色分けして示す
- 計算手順を掲示。それをもとにして計算させる
- カードなどで10の補数計算を練習
「4の友達は6」等
- 教具は、児童と同じ教具を教師も使う
- 学習した記録を見える化して残す

「推察する力」(推論)を身につけさせる指導

文章題の解法指導

- 一文ずつ段落を区切って理解させる
- 求める式が理解できるキーワードを教える(合わせて・加えると・たすと等)
- 解法手順を教える
「わかったこと」
「求めること」
「計算する式」
「答えを書く」
- ヒントは、見える化
例: 文字
イラスト
文字+イラスト

図形の問題の指導

- 図形は、色分けする
- 展開図も色で分ける
- 動きの見える化
- 操作を自ら行う教材開発
(合同・縮小・拡大等)

学習ルール・生活ルールの徹底

- チャイムの音で始まり・終わりを自覚する
- 授業中は席について学習する
- 先生や仲間が話しているときは、話している人におへそを向けて聴く
- 挙手の「ハイ」は言わない。指名されたら「ハイ」と言う。
- トイレは休み時間に行く
- 授業中どうしてもトイレに行きたくなったら先生の許可を得る
- プリントをするときは黙っておこなう。
- ともだちと遊ぶ時は、ルールを守る
- 自分が教室で行う仕事をちゃんとおこなう 他

教師の構え

- みんなで決めたルールは徹底して守らせる
- 褒めることに徹する
- 自分の行動を振り返らせるためにビデオで確認させたり、作文などで見つめさせる。
- 児童にはゆっくりと目をみて話す
- 児童を威嚇するような態度をとらず、児童の目線になって話す。
- 児童の話をおウム返しをしながら聴くようにする

トラブルの対応

- 本人に話を最後まで聴く
- 内容について間違いがないかを確認
- 問題行動について視覚的に記録し経緯を時系列で理解させる
- どのような行動をすべきだったのかを自分から言わせ、自覚させる